

第 45 回(令和 7 年度 第 1 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 7 年 7 月 7 日 (月) 14:00～
- 場 所 黒部市役所 201・202 会議室
- 出席者 協議会委員 17 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通計画 を作成しようと する市町村	黒部市長	武隈 義一	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
		黒部市タクシー協会長	神谷 慶志郎	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社 専務取締役・総務企画部長	助野 吉昭	欠席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長 黒部市長《再掲》	飯田 博文	所長代理 板屋 直人	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	寺島 哲也	欠席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会	大上戸 久雄	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	藤澤 義信	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	此川 昇	本人出席	
		ウィメンズくろべ	高橋 省子	本人出席	
		公募委員	下石 典江	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	東京大学名誉教授	原田 昇	本人出席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	大村 進太朗	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	鴻島 純	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	角井 繁俊	本人出席	
		富山県交通政策局	黒崎 勇一	本人出席	
		地域交通・新幹線政策室交通戦略企画課長	川端 康夫	本人出席	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	事務局長 高野 晋	
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫		
		Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長	小林 聖子	本人出席	
		富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	金山 剛	本人出席	
		宇奈月商工振興会長	羽柴 進一	欠席	

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：小森部長、山崎課長、西田主幹、中係長、島崎技師、木下技師
NiX JAPAN 株式会社：馬場

会議次第

1 開 会

2 あいさつ（会長 武隈黒部市長）

3 報告事項

- (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
- (2) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について・・・・・資料 2
- (3) 令和 6 年度の市内公共交通利用者数について・・・・・・・・・・資料 3
- (4) 黒部市地域公共交通計画の進捗状況について・・・・・・・・・・資料 4
- (5) ちよいのり黒部ステーションの新設について・・・・・・・・・・資料 5

4 議 案

- 議案第 1 号 令和 6 年度収支決算について（監査報告）・・・・・・・・・・資料 6
- 議案第 2 号 令和 7 年度収支予算（案）について・・・・・・・・・・資料 7

5 協議事項

- (1) 石田三日市線の一部変更について・・・・・・・・・・資料 8

6 その他

7 閉 会

開会

●定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が報告を行った。

○進行：山崎課長

あいさつ（武隈市長）

●会長よりあいさつを行った。

本日は、第 45 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位においては、ご多用の中、ご出席いただき感謝申し上げます。また、日頃より本市の公共交通施策にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

路線バス等については、今年度から多くの路線でルートやダイヤの見直しが行われている。また、三日市地区での電動ミニバスや愛本コミュニティタクシーの内山・音沢連絡線の運行も新たに始まった。昨年度の路線バス等の全体利用者数は、168,396 人で令和 5 年度と比較し、約 2,900 人、1.8%増加している。今後も利用者の方のご意見等も聞きながら利便性の向上を図り、出かけやすい・出かけて楽しいまちづくりを目指してまいりたいと考える。

次に、テレビ・新聞でも報道されたが、7 月 1 日に富山地方鉄道鉄道のあり方検討会本線分科会が開催された。議題は富山地方鉄道本線の中長期的なあり方等について検討する調査事業と令和 8 年度の支援についてであり、沿線市町の首長、富山県知事、富山地方鉄道の

中田社長で協議を行った。調査事業の実施については了承された一方、令和 8 年度の支援については、中長期的なあり方の議論が調うまでには時間がかかると見込まれることから、黒部市としては、富山地方鉄道の状況を考慮すると内容を精査する必要があるが、早く支援の表明をすべきと考えていたところでその旨を発言した。しかし他市町からは、調査結果が出ないと考えの表明はできないとの意見があり、調査の中間報告を待って改めて検討し、令和 8 年度の支援のあり方を検討することとなった。

富山地方鉄道は本市にとって、買い物や通勤・通学といった市民の日常生活を支える暮らしの足として、また、県東部を訪れる観光客の移動手段として重要な役割を担っており、市としては、少なくとも「新魚津―宇奈月温泉間」を維持できるよう、引き続き、必要な対応を進めていきたいと考えている。

このほか、6 月 28 日には「みんなで考える新幹線駅周辺のこれから」として新幹線駅周辺をテーマにした黒部市未来会議を開催した。駅前ロータリーの活用や駅周辺の賑わいづくりに関して様々なアイディアやご提案をいただいた。いただいたご意見等については、実現の可能性を考慮しながら、今後、駅前ロータリーの運用の見直し等の施策に反映していきたいと考えている。

本日の会議内容は、「令和 7 年度予算案」や「石田三日市線の一部変更」等について協議する予定である。委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきたく思う。

報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について
- (3) 令和 6 年度の市内公共交通利用者数について
- (4) 黒部市地域公共交通計画の進捗状況について
- (5) ちょいのり黒部ステーションの新設について

- 事務局より、資料 1～5 に基づき「経過報告」「市内路線バス・デマンドタクシーの時刻表の更新について」「令和 6 年度の市内公共交通利用者数について」「黒部市地域公共交通計画の進捗状況について」「ちょいのり黒部ステーションの新設について」の説明を行った。

○此川委員

資料 3 (18 ページ)の市内公共交通利用者数全体のグラフで、全体の利用者数の数値が、グラフの青色の上にあり見づらい。白い部分に記載してほしい。

○事務局

ホームページ掲載時や今後の資料作成の際は、表示方法に配慮する。

議 案

(1) 議案第 1 号 令和 6 年度収支決算について（監査報告）

●事務局より、資料 6 に基づき、令和 6 年度収支決算について説明を行った。

●藤澤委員より、監査報告を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第 1 号については原案のとおり承認とする。

(2) 議案第 2 号 令和 7 年度収支予算（案）について

●事務局より、資料 7 に基づき、令和 7 年度収支予算（案）について説明を行った。

○川端座長

意見がなければ、本議案について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、議案第 2 号については原案のとおり承認とする。

協議事項

(1) 石田三日市線の一部変更について

●事務局より、資料 8 に基づき、石田三日市線の一部変更についての説明を行った。

○川端座長

意見がなければ、本協議事項について承認していただける方は拍手をしていただきたく思う。

●出席している委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

承認を得られたため、協議事項については原案のとおり承認とする。

その他

- その他の事項について意見を確認した。

○下石委員

2年間公募委員を務め、広報について何度か提案し、初めて形になったと実感できるものが本年4月号の広報くろべであった。全面的に公共交通についてアピールするもので、表紙から中身までインパクトがあって伝わりやすい。1回にとどまらず地道に継続することが大事である。

特に、市民1人1人が月に1回でもバスを使えば、黒字化できるという記事を取り上げていただいた。その中の数値の表記は、役所が使う千円単位の表記ではなく、何億何千万円という一般の方も分かりやすい表記にしてほしい。桁を数える必要がある方もいると思う。見た瞬間に伝わりやすい表記に変えていただけるとよい。

また、住民の数を人口そのままに計算しているが、実際には赤ちゃんも含まれている。もう少し現実味のある数字にし、何歳から何歳までを想定した利用者数であることも記載すればよい。

現在、富山地方鉄道に関することが、新聞やニュースで大きく頻繁に取り上げられている。市民の意識を高めることが、公共交通の維持には非常に大事だと思う。それも併せて広報で取り上げてほしいと思う。富山地方鉄道がなくなってからでは手遅れなため、市民のレベルで意識を高める方法を検討していきたい。

○川端座長

富山地方鉄道については多くの方に乗っていただくことが最良の方法である。広報をしっかりとしていただきたいと思う。

○新庄委員

応援のお言葉をいただきありがたく思う。今後も公共としての黒部市、民間としての富山地方鉄道がそれぞれ役割分担、責任分担をしながら、より充実したサービスの提供に努めたいと考えている。

委員の方々に「いかがでしょうか」という意味でお話したい。富山地方鉄道に限らず、民間でありながら経営的に厳しい交通事業者に対して「支援、補助する」という表現が使われることがあるが、そのことについて違和感を持っている。

例えば資料4（19ページ）、実施事業に、「鉄道事業者への財政的支援の継続的な支援」とあるが、富山地方鉄道としては、これらの財政的支援は収益に合算されるものではない。

「支援」というと民間事業者はそれをあてにして全く経営努力をしないとされるため、明確にしておきたい。少し長くなるが表現についてぜひ真剣に考えてみていただきたい。「鉄道事業者への財政的支援の継続的な実施」というより「鉄道事業者（富山地方鉄道）を通して黒部市に提供される鉄道輸送サービスを維持し、充実させるための支援」であり、したがって「地域への支援」であると考え。我々への支援ではなく、移動サービス事業を実施する鉄道事業者である富山地方鉄道のノウハウを通して、地域の移動サービスを衰退させない、むしろ充実させるための地域への支援だと思う。

最初に申し上げたように財政的支援によって会社が潤うわけではない。バス事業も補助金があることで事業が黒字化することはなく、それでもマイナスである。会社に対する支援という表現だから様々な摩擦が生じるので、富山地方鉄道を通して地域の移動サービスをより便利にするための地域への支援であると考えている。ご理解いただければありがたい。

○川端座長

富山地方鉄道については様々な議論がされている。鉄道がなくなってしまうと後で後悔してもどうにもならない。是非とも残していただけるようにしていきたいと考える。

○新庄委員

原田先生はどのように思われるかお聞かせいただければと思う。

○原田委員

暮らしを支える交通サービスを提供するということになるので、新庄委員のおっしゃる解釈でよいと考える。市民への移動サービスを充実させることが「出かけやすい・出かけて楽しい」ということに直結するものであり、この協議会もその実現に向けて動いているものである。

7月1日の富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会では市長が進行役を担当され、また、積極的に動いておられるとのことであった。全体的な雰囲気としても、先ほど意見があった広報やニュースレター「公共交通でいこう」のほか、新幹線駅周辺のあり方の検討、7・8月に行われる「ローカル鉄道とまちづくりを楽しむ講演会&ワークショップ」など、いろいろな動きが出ていて、議論もしていただいていると感じる。皆さんがもう一度、更に真剣に、「残す」、「なくなったらどうなるか」ということをそれぞれの立場で考えていただきたいと思う。

○武隈会長

富山地方鉄道がなくなった場合に、最も影響が大きいのは黒部市であると考えている。費用負担の問題はあるが、何としても残す方向で検討していきたい。

バス等についても、これからも皆さんに利用していただけるような取組について、皆さんのご意見を頂きながら取り組んでいきたい。よろしくお願いしたい。

○原田委員

先日、別の市の講演で一般社団法人SMARTふくしラボの事業「G oトレ」が紹介されていた。以前は福祉施設に來所した方を車両で送迎していたが、今は公民館などの様々な場所に集まる方に働きかけ、既存の公共交通等を利用して事業を展開している。

この事業はいくつかの都市で横展開され、全国的に事業が取り組まれている。介護保険の予算で1人当たり3,000円程度の補助が出され、参加者は500円を負担して8人程度のグループで参加者の皆さんは非常に楽しく喜んで参加していると聞いた。担当の小柴氏は公共交通の利用促進ということも明確に打ち出しておられ、直ちに数値的な効果が出るものではないかもしれないが、そのような努力がされていてよい取組だと感じている。

○武隈会長

原田委員からご紹介のあった小柴氏は、これまで黒部市社会福祉協議会と SMART ふくしラボを兼務していたが、本年 4 月からは完全に独立し、SMART ふくしラボで「G o トレ」等に取り組んでおられる。「G o トレ」には黒部市も介護保険事業から事業費を拠出して支援しており、本市としても連携できるところは連携していきたいと考えている。

また、本年 3 月頃だったと思うが、SMART ふくしラボの取組等を視察するため、国土交通政務官が黒部市と小松市を訪問している。

○下石委員

前年度に福祉分野との連携について提案した。70 歳を超えると 3,000 円分のふれあい福祉券が届くようになるが、その 3,000 円分を思うように使えない方が多くいる。特に男性は使いようがなく困っていると聞く。福祉と公共交通の利用は切り離せないと思うので、もう少し柔軟な考え方で、美容院や買い物だけではなく、出かける時に役立てられるシステムに変えてほしい。ぜひ検討をお願いしたい。

○武隈会長

周知不足かもしれないが、現在も公共交通の運賃等に利用できるようになっており、5 月からは電動ミニバスの 100 円券としても使うことができる。

○下石委員

3,000 円分を一度に使えないことが皆さんの不満である。「1,000 円分しか使えないのか、残りの 2,000 円分はいつ使うのか」という声がある。分散していろいろな場所で使ってほしいという行政の意図は分かるが、ふれあい福祉券の利用者の気持ちも考えてほしい。

○武隈会長

ふれあい福祉券のみの利用は商店等から嫌忌されるということも考えられる。担当部署に改めて確認したい。

○事務局

一度に使える枚数は業種により設定している。複数回に分けて外出して利用してもらう趣旨で、3,000 円分を一度にまとめて使えない仕組みを取っている。

○下石委員

年配の方は頻繁に思うような場所に行くことができない。病院と近所に出るくらいの方は、1 年間に分散して使うことは困難だという意見を聞いている。ふれあい福祉券を受け取る業者ではなく、使う人の立場に立って使い方を検討してほしい。

○菅野委員

自分もふれあい福祉券を使用している。私は一度に使うより、1 年間利用できるのも使う楽しみを残しておいてもよいと考える。色々な人がいるため一概には言えない。様々な意見

があると思うが、私は一度に利用できるようにすることには反対である。

○高橋委員

石田に居住していて、富山地方鉄道をよく利用する。私はふれあい福祉券を受け取り次第、「えこまいか（富山地方鉄道の I C カード乗車券）」に 3,000 円分を全額チャージし、実家への帰省で新幹線を利用する際に、石田から新幹線駅までの富山地方鉄道の運賃として利用している。また、私の友人は車を所有しているが、同じく「えこまいか」にチャージして、1 年に 1 ～ 2 回、富山地方鉄道を利用して富山市へ行き、映画や食事を楽しむときに利用している。「えこまいか」にチャージして活用でき、大変助かっている。

○川端座長

様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。他に意見がなければ以上で本日の協議会を終了したい。

閉会（事務局）

●事務局

以上をもって、第 45 回黒部市公共交通戦略推進協議会を閉会する。

以 上